
ひきこもり戦士ガンダムNEET DESTINY

求める自由

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひきこもり戦士ガンダムNEET DESTINY

【Nコード】

N5792L

【作者名】

求める自由

【あらすじ】

種運命の闘いが終わりその後、かれらは……。

やっぱりニート？

結局ひきこもり？

まさかの犯罪者？

いやいや・・・そんなまさか

やっぱり王道の二ートじゃね

やる気でない、何もしない、金がない、でも働くあてがない、だから外出ない、やる気出ないって事に

第1話 花が咲いても（前書き）

今回はキラがバイトします。

第1話 花が咲いても

ついに始まりました。

ガンダムSEED DESTINY外伝 ひきこもり戦士ガンダム
NEETDESTINY

ただ種死のあと、どうなったかを平行世界と言う事で描かれる。

それが、この作品。

原作ブレイカーが嫌いな人は離脱を進めるZE。

やったねウレシードを見て書きたくなった作者、お前の厨二邪気眼
小説はどうなる？

そして、全て。

さあ、始まりだ！

ひきこもり戦士ガンダムNEET DESTINY の世界へー

GO!!!!!!!!!!!!

現在キラはZAFTに就職した。
だが、やはりキラ。

ニートは治りはしなかった。

キラ『あー、だりい、ラクスうーもつと楽な仕事ないの〜。』

ラクス『ありませんわよ。仕事とは皆辛いものですわ。』

キラ『もつと僕に合うのわ?』

ラクス『貴方はMSを無差別ビームで大破させるしかしないじゃありませんか?』

キラ『ちつ、なら・・・やめるか。』

ラクス『また、ニートになるのですか?』

キラ『大丈夫、アスランがいるから。』

そう言うと、タイミング良くアスランが入ってきた。

アスラン『キラ〜』

キラ『きたきた。』

アスラン『新しいゲーム買ってきたよー』

キラ『ありがとうアスラン。』

キラは笑顔で言った。

アスラン『キラの笑顔が見れて俺もうれしいよ。』

キラ『（次は何をビッチに頼もう?）』

ラクス『（このビッチが、だからキラはニートなんですわよ）』
キラ『アスラン次は、なのはSのBOXがカートンで欲しいな。』

アスラン『分かった、行ってくるね。』

アスランは即効走って行った。

キラ『それじゃ、僕は帰るねー』

キラが部屋を出ようとするのとラクスが言う。

ラクス『ストライクフリーダムには乗れませんわよ。』

キラ『えっ!?!?』

ラクス『当たり前ですわ。貴方に渡したらキラ王国とか作りそうですから。』

キラ『意地でも!』

ラクス『面倒ですわね。SPの皆さん!』

SP『はい!』

SPがキラを捕まえた。

キラ『離せー!』

ラクス『ほつり出さない。』

S P 『はい。』

キラはほつり出されてしまった。

キラはぽつんと立っている。

キラ『どうしよう。』

・・・

キラ『まあ、いいやゲーセン行こう。』

—————

アスランサイド

アスラン『カードはどこかな?』

ビッチが無駄に探してるぜ

シン『アスランじゃないですか、何してるんですか?』

店にいたシンがアスラン話かけた。

アスラン『シンじゃないか、君こそ何をしているんだ?』

シン『バイトですよ。この不景気でバイトが可能になったんですよ。』

『

アスラン『そうなんだ』

シン『で、アスランは何してんですか？』

アスラン『キラのお願いでリリカルのカードを探しているんだ。』

シン『そうなんですか。なら俺が持ってきますよ。』

アスラン『ありがとうシン。』

・・・

アスランはカードを買う事ができた。

シン『また来てくださいね。』

アスラン『ああ。』

その時、ラクスから電話が入った。

ラクス『アスランですか？』

アスラン『どうした？』

ラクス『キラが退職しましたわ。』

アスラン『そうか・・・って、えー!!!』

ラクス『だから、後は頼みましたわ。』

アスラン『ちよ、待つ。』

『ブチッ、っー、っー』

アスラン『切られた。』

シン『アスランどうしました？』

アスラン『キラが仕事をやめた。』

シン『えー、何やってんスカあの人！』

アスラン『俺はキラの所に行くよ。働かせなくちゃ。』

シン『大変ですね。』

アスラン『まあな。』

アスランはキラの家に向かうためカード屋をでた。

――――

アスランはキラの家につきましたら。

アスラン『キラー！キラー！』

・・・

アスラン『入るぞー！』

アスランは開いてたドアを開き家に入った。

キラ『何アスラン？』

家に入ると寝転んでゲームをしているキラにあった。

アスラン『キラ、お前仕事をやめたそうだな。』

キラ『そうだけど。』

アスラン『何で辞めたんだ。』

キラ『それよりカードは？』

アスラン『ああ、はい。』

アスランはカードを渡したら。

キラ『うん、ありがとう。』

アスラン『って違うー！』

キラ『うるさいな。』

アスラン『だから、何で辞めたんだと聞いているんだ。』

キラ『働いたら負けだと思ってる。』

アスラン『何だ、そのニート見たいな台詞は。』

キラ『ふざけるな、僕の何処がニートだってんだ。』

アスラン『このアニメグッズの量がニートじゃん、いいから働け!』

キラ『え〜』

アスラン『嫌がっても無駄だ。つれてくからな。』

キラ『アスラン。』

アスランはキラを連れ出した。

会社の前

アスラン『取り合えず面接をうけてこい。』

キラ『はあ〜、わかったよ。行って来ます。』

キラは会社の中に行った。

―面接―

試験官『それでは、君の名前を教えてくださいかな?』

キラ『キラ・ヤマトです。』

試験官『昔は軍人だったみたいだけど、何故辞めたのかな?』

キラ『疲れたから。』

試験官『・・・』

キラ『どうしました？』

試験官『いや、では続けますよ。』

キラ『はい。』

試験官『では、君の特技は？』

キラ『13トーテムポールです。地面からトーテムを出して人をぶっ飛ばせます。』

―結果は不合格―

キラ『何だよ、もう、冗談に決まってんじゃないん。』

アスラン『何で面接で冗談かましてんのー！』

キラ『たくアイツらゲームじゃ億万長者の僕を採用しないなんて脳みそ腐ってんじゃないの？』

アスラン『腐ってるのはお前だ。』

そして、アスランあるひとに電話をした。

アスラン『すまないがキラをバイトさせたいんだ、お願い出来ないか？』

・・・

そうか、ありがとう感謝するよ。すぐ向かわせる。』

—————

シン『こんにちわキラさん。話はアスランから聞いてますから。』

キラ『君はたしかシンだっけか。』

シン『まあ、早速働いてもらいましょうか。』

キラ『うん、わかったよ君が僕の分も働いてくれ。』

アスラン『（心配で見に来たが大丈夫かな）』

アスランは変装して見ている。

シン『ああ、そういえば新人さんが、もう一人いたんだ。

紹介しますね、明日音ちゃん（アスランの事）。』

明日音『はい。』

シン『紹介しますね。同じ新人の明日音ちゃんです。』

明日音『明日音といます。よろしくお願いします。』

キラ『よろしく。それにしても君可愛いね。今から君は僕とホルに行くべきだね。』

アスラン『（お前がいくのはブタ箱だあー。）』

そして働き始める。

キラ『いらっしやませー。新作あるよ、買っよね、買えよ！』

客『ひいいー！』

客は逃げ出してしまった。

シン『ああ、何してんすか。まともに接客も出来ないんですか？普段何してんすか。』

キラ『ゲーム。』

シン『だから、最近の子供はウンタラカンタラ言われるんすよ。』

アスラン『（ああ、そんなに説教したら・・・）』

シン『さすがわニートの御家芸だな！』

キラ『ばっ！』

キラはシンをぶんなぐる。

いくら綺麗に花が咲いても人はまた吹き飛ばす。

アスラン『シーン。』

アスランはぶんなくられ吹っ飛んだシンを探しに行ったとき。

キラ『さて帰るか。』

キラは帰宅した。

――――

ーキラの家ー

アスラン『キラー、今日浮気したろ見たんだからな（俺だけど）。』

キラ『アスランでしょ、あの子。』

アスラン『キラ。』

キラ『少し違う君にドキドキして少し意地悪しなくなっちゃったんだ『明日音ちゃん』。』

キラはアスランを後ろから抱きしめた。

アスラン『キラー！！！！！！』

キラ『それじゃ新しいゲーム買って来て。』

アスラン『うん、行ってきます。』

キラに最適な仕事があった。

第1話 花が咲いても（後書き）

キラ『作者よこれは、どんな小説何だ？』

作者『ギンタマ？』

第2話 最大の苦しみ（前書き）

今回はピクニックだよ

第2話 最大の苦しみ

ーキラの家ー

アスラン『キラー、ピクニック行こー』

キラ『I・Y A・D A』

アスラン『いいから行こー』

キラ『外怠いし、紫外線きついし、僕反射なんて事出来ないから嫌だ』

アスラン『（どうする、どうすればいい、他の皆でも誘って行くか？だが、二人つきりになれないじゃないか、なのはとフェイト的になってるはずだと思ったが・・・

取り合えず、思い付いた事を連呼するしかないな。）

キラー、じゃあ皆で行こー。

それなら良いだろ？』

キラ『群れてるなら、きゃみ殺す。』

アスラン『何その『きゃみ』って、良いからI・K Y O・U・Y O』

キラ『もう、しつこいな分かったよ、行くよ。』

アスラン『よし、じゃあ・・・来週の土曜日に行くぞ。忘れるなよ。』

(さてラクス達も誘わなきゃ) 『

キラ』(何かゲーム買ってもらわなきゃ) 『

1週間後

キラ』で、いつものメンツか。 『

アスラン 『そうだよ。俺、キラ、カガリ、ラクス、イザーク、ディ
アッカ、シン、ルナマリア、レイ、デュランダル元議長他』

キラ』て言うかデュランダル何で生きてんの? 『

アスラン 『何か生きてたんだって。 『

デュランダル 『私もまだ人生をenjoyしたかったからね。 『

キラ 『お前撃たれただろ。 『

デュランダル 『作者が生かしたんだよ、優しいよね。 『

キラ 『そのまま死ねば良かったのに……。 『

カガリ 『キラが黒い……。 『

シン 『マユーン、マユーン! 『

ルナマリア『大変です、シンが壊れました』

アスラン『何でだー。』

レイ『（ピキーン、むむ）多分ここは妹が亡くなった所なのでしょう。だから、シンは……』

ルナマリア『シスコン、しっかりしてシスコン。』

アスラン『しっかりしろ、シン！』

カガリ『金をくれシン！』

レイ『カガリさん少し違いますよ。』

カガリ『ん？』

大丈夫だ、キラを見てみる。』

レイ『？』

レイがキラを見た。

カガリ『キラは堂々とシンの財布の中身を取っているぞ』

レイ『あ……』

あきれてものが言えない。

・・・

しばらくしてシンが落ち着きを取り戻した。

アスラン『シン。』

シン『皆さん、すみません。ご迷惑かけて・・・』

キラ『いいんじゃない、取り合えず食い物くれ。』

アスラン『はい、キール。』

アスランはキラに愛妻弁当（笑）を渡す。

キラ『ありがとう。』

キラは弁当を食べはじめた。

ルナマリア『わ、私達も食べましょう。』

カガリ『早く、早く私にー。』

レイ『カガリさん行儀が悪いですよ。アスランも何か言って下さい。』

アスラン『キール、はい、アーン。』

キラ『あーん。』

レイ『ダメだ・・・この人』

――

そして、弁当を食べ終わるとラクスが有り得ない事を言った。

ラクス『よし、鬼ごっこしましょう。』

キラ『何？』

カガリ『動きたくない。』

シン『えー、良いじゃないですか、やりましょうよ。』

キラ『なら、君が鬼をやつてよ。僕は神をやるから。』

カガリ『神ってなんだよ。』

キラ『天から見守ってるのさ。』

ラクス『つまり、やりたくないの言い回しですわね。』

キラ『・・・』

カガリ『つー事で、シンが鬼い、皆逃げろー！』

シン『何で俺がー！』

レイ『諦めて100数えるんだ。じゃあ・・・』

レイは走り去る。

ルナ『頑張つて。』

ルナマリア逃走。

キラ『僕に近づくな。』

キラは走り去る。

シン『皆、捕まえてやる。今日、ここで!』

ついに鬼ごっこが始まった。

これがキラの地獄の始まりだと誰も知らなかった(笑)

キラ『取り合えず隠れよう。』

キラは森を歩き隠る場所を探す

シン『見つけたぜキラさん。』

キラ『ちっ、見つかった。隠れてすらないのに。』

シン『あんたは俺が捕まえるんだ、今日ここで!』

キラ『あまいよ、トラ ザム!』

キラは全力でシンを蹴り飛ばした。

シン『ぐほあー!!!!!』

キラ『君が僕に触れて無ければ捕まった事にはならない。だから、君は……』

と言いながら走って逃げた。

シン『くそっ、こんなものありかよ……』

そして、それを影から見ていたアスランは

アスラン『さすがキラ。』

何かさらに惚れていた。

……

キラ『ふう、ここまで逃げれば大丈夫かな。』

ぎゅるる〜

キラ『何だ、この嫌な音は！

ぐあああ、腹が腹があー!』

そう、原因はアスランが持ってきた弁当だった。

なぜなら、材料はラクスつちが期限やつちやつたやつを入れ替えて

いたのだ。

キラ『トイレはあ、どうおこだあー!!』

キラは内股でトイレを探す。

キラ『トイレ、トイレ、最悪野原にぶちまけてでもー！
これでも毎日ティッシュは持ち歩いて・・・無い？
何だとおー、畜生おー、トイレを探すしかなかったー。
俺の手にトイレをー。』

トイレを探して15分、キラは限界だった。
そして、ついに見つけたトイレを。

キラ『見つけた、オアシスを・・・』

キラはトイレに向かった。

キラ『何・・・だと』

キラが見た光景、それは

シン『ぐあああああ』

デュランダル『はぐわあああああ』

ディアツカ『ぐううれいとあああああ』

キラ『犠牲者が他にもいたのか・・・』

キラは少し絶望を感じていた。
すると後ろから声をかけられた。

レイ『キラさん、あきらめなさい。彼等はトイレの住人だ（ギルごめん守れなくて）。』

キラ『そんなあああああ！』

キラは小声で叫んだ。

大声を出すと、キラのミーツィアがフルバーストしかねないからだ。

キラ『まだだ、まだ諦めない。』

レイ『？』

キラ『まだ、女子トイレがある……』

レイ『まさか、禁断の女子トイレに突入すると言っのか！』

キラ『ここには、あまり人はいない、今なら行け……る』

レイ『だが、いたら……変態+おもらしの称号が与えられるんだぞ』

キラ『それでも、守りたい主人公の座があるんだあー』

キラは女子トイレにトランザムする。

レイ『やめろー』

・
・

・
・
・

30分もキラはトイレにいた。トイレからは『痛い』がたえなかつたと言う。

そして、キラはアスランの手料理が毒物と認識したとき。

――――

数日後

アスラン『大丈夫かキラ、痔になったんじゃないか？』

キラ『病院・・・通ってる。』

アスラン『ごめんね、ゲーム買ってくるね。』

キラ『早く・・・。』

アスランがゲームを買いに行くとカガリが入って来た。

カガリ『やあやあ、痔になった主人公君。』

キラ『何かよう？』

カガリ『そういえばな弁当にラクスが細工したらしいぞ。
世界中の二ートを痔にしたいらしい。』

キラ『いつか、殺す。』

それを影で見っていたラクスは笑っていた。

ラクス『クスクス。』

ルナマリア『ラクス様・・・』

一方、他のトイレの住人達は。

シン『ぎゃあああああ』

デュランダル『いぎゃああああ』

ディアツカ『ぐうれいとおああああ』

まだ、トイレにいた。

キラ『何であいつら、まだ、トイレにいの、置いてったよね。』

カガリ『気にしたら負けだ』

第2話 最大の苦しみ（後書き）

あのと皆ね痔になっ たんだよ

第3話 やってないんだ(前書き)

おい、デュエルしろよ

何故かデュエルをします。

えっ、何でって？

作者がサイバー流を極めてるからですよ

キラ『極めてないだろ』

作者『なめんな、DTだとキラさまと呼ばれサイバー流の魔王って呼ばれてんだ』

キラ『君はDTの魔王って、数少ない友達に呼ばせてんだろ』

作者『うっ・・・痛い所を』

第3話 やってないんだ

キラ『くそっ、何故だ・・・何故なんだ』

カガリ『キラ・・・私は負けたく無いんだ』

シン『あんたは俺が討つんだ、今日、ここでー！』

さて、何故こうなったかと言うと・・・

―数時間前―

シン『あんたはまたー！』

アスラン『どうしたシン！？』

シン『また、キラさんが！』

アスラン『キラ、またか、またシンの財布から抜いたのか？』

キラ『何の事やら』

アスラン『とぼけるな、お前は何回やれば気が済むんだ。

カガリやラクスも怒ってるぞ』

ラクス『しょうがないですわ、キラはへタレた引きこもりのニート、諦めるしかありませんわ』

カガリ『やはり私が姉として教育するか』

アスラン『カガリ、君も引きこもりじゃないか』

カガリ『えっ、何の事やら』

ラクス『（カガリさんが妹ですわね、幼いですわ）』

シン『（兄妹つてにるんだな）』

話は戻り

アスラン『認めないと言うんだな』

キラ『僕は、それでも僕はやって無いんだー、とキラは否定します。』

アスラン『（スルーしよ）俺達は認めるまで、ここにいますぞ』

キラ『嫌、困るから帰って』

シン『なら返して下さいよ』

キラ『だから、取って無いって』

ラクス『ここは、MO・U、ゲームしかありませんWA』

キラ『ゲームだと？』

シン『何のです？』

ラクス『いまから決めますわ』

そう言うとラクスがルーレットを出した。

シン『これで決めるんですか？』

ラクス『はい。では、スタート！』

アスラン『はやっ、回すのははやっ！』

キラ『何でもいいよ。』

ルーレットが止まる、指した先は。

ラクス『おい、デュエルしろよ！』

アスラン『何だそれ』

ラクス『デュエルですわよ。デュエルなら何でも良いですわよ。デュマ、遊王、ガンダムウォー、ウァス。』

シン『じゃあ遊戯王で。』

アスラン『そこはガンダムウォーだろ。』

シン『だって作者しらねえし、遊戯王が一番楽しい』

キラ『良いんじゃない。』

ラクス『では決まりですわね。』

キラ『じゃあ、準備しようか。』

シン『デステイニーの力を見せますよ。』

アスラン『じゃあ俺も参加する。』

シン『アスランはダメ、デステイニーでカブるから。』

アスラン『何で俺がデステイニーって知ってるんだ!?!?』

シン『いや、どこのGXとか言うアニメの不死鳥さんの中の人繋がりで……』

アスラン『……』

カガリ『じゃあ私は?』

キラ『カガリはやらねキャラだからいらないよ
今回はタイムンだ。』

シン『へっ、のぞむ所だ。』

カガリ『じゃあ最初のやつはどうなる。』

キラ『しらん!』

カガリ『う、うわ〜ん!』

アスラン『キャガリー!』

カガリは泣き出し走って逃げ出した。

キラ『よし、始めようか。』

シン『準備はOKですよ。』

ラクス『では、始めます。ルールはマスタールール、ライフ8000、ミスなどあっても誰も気づかなければスルー

デュエル開始ー！（磯野風）』

アスラン『ラクス・・・』

Bパートへ

最初の吹き出しが意味の無いものになり、一時間前の設定も無視された。

だが、デュエルは始まる。

フリーダムVSデステイニー

VSって携帯で打つとき変換を別のにすると嫁になるから困るな・

では後半スタート。

キラ『さて、手札は・・・何これ！』

サイバーツウ アイ3

プロトサイバー2

キラ『くそっ、あのカードに賭けるしか・・・』

キラのドローフェイズ。

キラ『僕のターン、ドロー（来た）。』

キラはニヤリと笑みを浮かべた。

キラ『魔法発動、手札抹殺！』

シン『さすがキラさん、アザース！』

シンはディアボ2、ゾンキヤリ1、青D1、融合1を捨てた。

キラ『それじゃあ、いくよ。カードを一枚伏せて、モンスターをセツトだ、ターン終了』

シン『俺のターン、ドロー（運命は俺の味方のようだ）』

キラ『？』

シン『手札から魔法発動、融合。』

手札の青血とドグマを融合、来いDIEEND！

さらにDIEENDの効果で伏せモンスターを破壊。』

キラ『くっ、社員が！』

シン『融合回収発動、青血と融合回収だ。
さらに戦士の生還発動、ドグマ回収。』

そして融合発動、青血とドグマをDIEENDに！
(ちなみに2体とも守備)

ターン終了です。

残り手札1』

キラ『僕のターン、ドロー(フン蹴散らすぜ。)
未来融合発動、デッキからサイバードラゴン2、を送りツインを選
択、さらに伏せカード発動、オーバーロード融合！』

シン『何、オーバーロードを伏せていただと！』

キラ『7体融合キメラ！』

さらにビックバンシユート装備し攻撃だ

攻撃力6000！

エウ『オリュシオン・レザルト・バースト2連打！
6000ダメージだ！』

シン残り2000。

シン『だがDIEENDは蘇る！』

キラ『ああ、分かっている。カードを一枚伏せターン終了。残り手
札1』

シン『俺のターン、ドロロー（はぁ、来たね）

俺はDIEEND2体をリリースして『デステイニー』を召喚する！』

キラ『！』

さて、オリカのデステイニーの紹介だ。

デステイニー、LV10、闇、機械族、効果

ATK4000、DEF3200

このカードを召喚する場合、効果を使用していない『DIEHERO』か『DIEHERO』を融合素材に使用したモンスター2体をリリースしなければならぬ。

このカードは、一ターンに一度相手モンスター1体を破壊し、その攻撃力分のダメージを与える。この効果を使用したこのカードが直接攻撃した場合、与えるダメージは半分になる。

このカードは相手の魔法、罠の効果を受けない。

このカードが攻撃された時、ターン終了時まで、自分の墓地の融合モンスターの攻撃力分、このカードの攻撃力をアップする。

この効果で攻撃力がアップしたこのカードとの戦闘で発生する互いの戦闘ダメージは0になる。

手札のカード一枚を捨て、相手の墓地のモンスターカード一枚につき100ダメージを与える。

このカードは融合モンスターの融合素材に使用できない。

キラ『こんな、これは・・・』

シン『デステイニーの効果発動、キメラを破壊し5600ダメージを与える、さらにダイレクトアタック!』

キラ『ぐああああ』

8000-5600-2000は400です

シン『さらに、スケゴすて、200ダメージだ
ターン終了。』

キラ『くそっ、どうする・・・この引きで全てが決まる。・・・ま
あ、いいさ、どうにでもなれ!』

キラは開き直ってドローした。

キラ『これで僕の勝ちだ。』

シン『?』

キラ『伏せカード発動、異次元からの帰還』

シン『何だと。』

キラ『いでよサイドラ2、プロトサイバー2、ツウ、アイ1
そしてプロトサイバー1とツウ、アイ1を墓地に送りキメラテック・
フォートレス・ドラゴンを召喚する。』

さらにパワーボンドを発動！』

シン『何！』

キラ『サイバードラゴン3体を融合・・・融合召喚、サイバードラゴン！！』

これで終わりだ

サイバーエンドドラゴンでデステイニーを攻撃！

エターナル・エウ、オリュシオン・バーストお！』

シン『ふんっ、あまい！

デステイニーの効果発動！』

キラ『何！？』

シン『デステイニーが攻撃された時、自分の墓地の融合モンスターの攻撃力の合計をデステイニーに加える、だが戦闘ダメージは発生しない。

そして、デステイニーの攻撃力はDIE ENDの力を得て10000になる』

キラ『ぐあああああ』

サイバーエンド破壊！

シン『ターン終了時、キラさんは4000ダメージを受ける。つまり、俺の勝ちです。』

キラ『嫌だ、俺は、負けたく無い！』

俺は勝ちたい貴様を倒して。』

シン『ああ、はいはい。どっそのGXの人になんなくて良いです。早くしてください!!』

キラ『俺のサイバーエンドが死んだ時、手札のこいつが発動する。俺はキメラテック・フォートレスをリリースし、いでよ』ストライクフリーダム!』

これが俺のデッキの切り札だ!』

シン『フリーダム・・・』

さて、効果の説明だ。

ストライクフリーダム、光、LV10、機械族、効果
ATK4000、DEF1800

このカードは自分のフィールドの機械族モンスターが破壊された時、自分の他の機械族モンスターをリリースして、手札または墓地から特殊召喚できる。

この効果で特殊召喚に成功した時、このカード以外のフィールドのカードを全て破壊する。

このカードは自分の墓地の融合モンスターの数+1回攻撃できる。

キラ『ストライクフリーダムの効果、このカード以外のカードを全て破壊する。』

ドラグーンデストラクション!!!!!!』

シン『なんだとおー！』

キラ『これで終わりだ。』

ハイマツトフルバースト5連打あああー！！！！（実際4連打）』

シン『ぐああああああー！』

キラ『貴様にドラゲーンフルバーストなどは使わない・・・俺の勝ちだ。』

シンLPO

キラ勝利

シン『くそお、こんな』

アスラン『で、デュエルも終わったし聞くけど、キラはやって無いんだな？』

キラ『やって無いよ、カガリじゃないの？』

ネカフェの行き過ぎで金ヤベーって言ってたし。』

シン『なら呼んでみましょうよ』

アスラン『そうだな』

そう言ってアスランはカガリに電話をした

アスラン『カガリか、早く来てくれ、キラが精神崩壊で大変なんだ。』

』

カガリ『何、分かった。すぐ、行く!』

カガリは電話を切った。

キラ『アスラン、誰が精神崩壊で大変なのかな?』

アスラン『ああ言えば、すぐに来ると思って・・・』

そんな話をしているとカガリがやって来た。

カガリ『キラ!大丈夫かあ!』

アスラン『確保お!』

キラとシンが両腕を掴み拘束した

カガリ『な、なんだ!?!』

アスラン『え、率直に聞く。

抜いたのお前か?』

カガリ『(ビクッ)何の事やら?』

アスラン『(馬鹿だなコイツ)シン、犯人はカガリだ』

シン『何だとおー(いまさら)』

カガリ『いやー、返す返すからあ』

キラ『馬鹿め（エクスカリバー風）』

ラクス『おやおや』

そんな感じで事件は解決した。

キラ『ボクツて信用ないね』

アスラン『俺は信用してるぞ』

キラ『・・・（なら疑うな）』

第3話 やってないんだ(後書き)

次は何をやるのかな？

よし、アスランを女に・・・

いや、何でもない

第4話 アスランは妹（前書き）

アスラン・・・

ツチ

第4話 アスランは妹

キラ『やあ、シンよく来てくれた。』

シン『何かようなんですか』

キラ『アスラン、カモン!!』

すると、キラの後ろからマユ服アスラン登場

シン『マ、マユ・・・』

さて、何故アスランはこうなったか？

ー少し前ー

キラ『やあやあ、アスラン。』

この前は、よくも疑ってくれました
なので、その仕返しをしたいと思いまーす』

アスラン『えっ?』

キラ『うおー、マユー!!』

アスラン『シンの真似!?!?』

『ぎゃー』

キラ『ふふふ、完了だ』

アスラン『……』

キラ『アスラン・マユよ、マユ・アスランよ、どっちでもいいか。』

アスラン『……』

キラ『そうだ、シンを呼ぼう！』

アスラン『待つてー！』

キラ『いいからいいから隠れて隠れて』

アスラン『の、わ』

シン『チワース』

キラ『はやつ、マジはやつ』

まあ、いいや。

やあ、シンよく来てくれた。』

シン『何かようなんですか』

キラ『見せたい者があるんだ』

アスラン、カモン！！』

キラの後ろからマユ服アスラン登場が来ました。

シン『マ、マユ……』

キラ『（これが私の人生なんだ）』

シン『うおー！マユー』

アスラン『うわお、この馬鹿野郎お』

シン『うああああ、マユー！』

キラ『あつ、どごぞのDESTINYみたく斬りやがった（手刀で）』。

アスラン『はあ、はあ、危なかった
今のうちに……』

キラ『甘いなあ、アスラン……甘すぎる』

シン『マユー！』

アスラン『何でだあー！』

蘇ったシンから全力で逃げるアスラン……

キラ『いくら綺麗にアスランが咲いても僕はまた、吹き飛ばす。』

アスラン『キラー、お前ー』

キラ『だりい、アスラン飽きたら呼んでねえ』

キラはゲームをやりはじめた。

アスラン『あの野郎ー！』

シン『マユー、うおー、マユーー！』

アスランは外を逃げ回っていた

アスランの逃走はその後2時間続いたと言う

・・・

アスランはシンをまいてから、隠れてマユ服から着替えた。

シン『マユー、マユーー』

・・・

アスラン『はあ、つかれた』

シン『マユーー！』

アスラン『わおー！』

シン『何だアスランか、何してるんですか？』

アスラン『いや、何も。』

シン『そうですか』

アスラン『あゝ、俺今からキラの所行くんで、じゃあ』

シン『俺も呼ばれてんですよ』

アスラン『くんな・・・』

シン『へ?』

アスラン『いいから』

アスランが本気で睨んだ

シン『ああ、はい』

シンはテクテク歩き去った。

ーキラの家ー

アスラン『キラー!』

キラ『アスラン!』

アスラン『いや、どこのSEEDの時みたく返さなくて良いから』

キラ『で、何？』

アスラン『お前のせいで酷い目にあつたぞ』

キラ『妹系アイドルにでもなれば？』

アスラン『（聞いてないな、コイツ）』

キラ『取り合えず着替えようか』

キラは妹系アイドル服をプレゼントした（どんなのかは、想像に任せます）

アスラン『・・・』

キラ『そろそろ・・・来る頃だけど？』

アスラン『？』

すると戸を叩く音が！

キラ『おっ、来たかな？』

はい、今行きまーす。』

記者『チワース』

キラ『おーつかれちゃ〜ん
んじゃ、撮影始めよか〜』

アスラン『……』

……

準備ができた

アスランの撮影がキラによって開始された

キラ『YOU大人しく撮られちやいなよ』

アスラン『ジャーさんかお前はー!!』

記者『あゝ、撮影ではなく取材なんですが……』

キラ『撮影機材さるからYOUやっちゃいなよ』

記者『んじゃ、やるか』

アスラン『えー、えー、えー、断れよ』

キラ『取り合えずアスランこっち来て着替えも出来てるし』

アスラン『話を聞けー、つてか、何故俺は着替えてんだー!?!』

キラ『うるさいな、早くしろよ ッチ』

アスラン『ッチじゃねえ』

記者『さっさと始めよか』

キラ『ですね、ラクス達も来ましたし』

アスラン『何・・・だと』

ラクス『流石　ツチ、　乱ですわね』

カガリ『何だアスラン、　ツチな格好して、　あははははは』

シン『暇なんで来ましたー！

つてマユー！』

キラ『黙れー！』

キラがシンを気絶させた

その他の人達『面倒だからって扱い酷くね扱い・・・』

ルナやレイの台詞をカットした

アスラン『（何なんだよコイツラ）』

レイ『早くやれよ』

ラクス『とつととやれや』

カガリ『早くしろ』

アスラン『キツつ、　言葉キツつ、　キャラ崩壊！？』

キラ『皆期待してるよ（馬鹿にしてるよ）断れないね、断らないよ

ね

アスラン『うう、わ、分かったよ、やりますよ』

キラ『何だ、何だよ、何ですか、本当はやりたかったくせに』

アスラン『したくないよ、それと、その何の三段活用は何だ』

キラ『じゃあ、始めるよお』

アスラン『俺の話を聞けー！』

結局アスランは色々な写真を取り、その日を終えた

―数日後―

キラ『アスラン、この前の写真が週刊デスティニーに載ったよ』

アスラン『何でだー！』

キラ『あと、ラクス達にも教えたから』

アスラン『何でだー！アイツら馬鹿にしてくんだろーが』

カガリ『早速きたぞ、ネットにも貼りまくったから面白いぞお』

ラクス『妹とはただの ツチ、 乱妹DAYですわね』

アスラン『（何この人達タチが悪すぎんだけど）』

キラ『と言う事で今から電話がくるだろうね』

アスラン『へっ？』

すると電話がなりまくった

イザーク『どおいうことだあ』

アスラン『じゃあ』

電話を切った

ディアツカ『グウレイトオ』

アスラン『他の台詞はないのかあ』

電話をきりやした

ムウ『初登場お』

アスラン『作者あー、重要な人を忘れるなあー！』

電話を斬る

キラ『あははははは、面白い面白い』

カガリ『あははははは、死ぬ、死ぬ、笑い死ぬう』

カガリは泣きながら笑いまくった

アスラン『カガリいー』

キラ『怒るなアスラン、カガリは今泣いているんだぞ』

アスラン『意味の分からん台詞を使うなー!』

ラクス『アスランのせいでシンがマユを連呼するから大変でしたわ。

本当 ッチには恥じらいが無いんですから
困りますわ』

アスラン『いやいや、俺のせいじゃねーし』

シン『やっと見付けた、マユー!』

アスラン『どっから現れたー!』

アスランはそう言いながら逃げた

シン『待て、マユー!』

そして、キラは言った

キラ『今日も平和だな』

ラクス『ですわね』

カガリ『だな』

作者『そだね』

キラ『作者引ッ込め』

作者『はい』

キラ『さて、皆で世界中で広まったアスランを見ようか
んで、ファンクラブでも作ろう（もうかるかな）』

ラクス『ですわね』

カガリ『だな』

そんな感じで日々は過ぎて行った。

アスラン『俺はどうなるんだー！』

第4話 アスランは妹（後書き）

次回から闘うかな

出演者『何・・・だと』

アスランとシンは銀魂的にやらせようか・・・

アスラン『変えて』

シン『まじで』

キラ『僕はいないんだね、主人公なのに』

第5話 まさにフリーダム（前書き）

キラ『作者あー！』

作者『なんすか？』

キラ『てめえ、投稿するまえに確認しろや』

作者『忘れたんだよ』

キラ『くちゃくちゃで意味わかんぬえよ』

作者『何を今更・・・』

キラ『アスランの台詞が酷い事になって・・・』

作者『はいはい分かりましたよ、これからは善処しますよ』

キラ『善処しますよって、初めから』

作者『はいはい黙れえー！』

第5話 まさにフリーダム

キラ『フリーダム・・・あれを落とされちゃったら僕は』

アスラン『何をいきなり言い出すんだキラ』

キラ『ガンネクやってたらHルートの敵が何か強くてさ、アカツキが異様に強くて僕のフリーダムが半分削られて、その後、ストフリと闘っただけでフルバースト当たったり、デステイニーに斬られたりで死んじゃったんだよ』

アスラン『あ、ああ、そうなんだ』

キラ『アスランと協力プレイしたいけどイージスしかないし、せめてジャステイスだせよ』

アスラン『しょうが無いんじゃない・・・連ザやれば良いんだし』

キラ『だって連ザ集中しないと死にまくるからヤダネクならミスってもネクダすりゃいいし』

アスラン『なら、俺はイージス、キラはストライクで行けばいいじゃないのか？』

キラ『やだよ、ストライク使いづらいもん。ソードで突っ込むしか僕できないもん』

アスラン『はあく、面倒臭い。任務に行こう・・・』

キラ『ちょ、アスラン!』

アスランは呆れて任務に行ってしまった。

キラ『ん〜、よし無差別ビームでストレス発散しよう』

キラはラクスとか言う半独裁者(笑)に電話した

ラクス『もしもし、ラクス・クラインですわ』

キラ『ラクス〜、フリーダムで任務したいな〜、何か無い?』

ラクス『ありませんわ』

キラ『そこを何とか』

ラクス『間に合ってますわ、シンが頑張ってますから』

キラ『ああ、どこのデスティニーとか言うアニメで僕に主人公とられた子か』

あんなのよりも、僕の方が強いし上手くやれるよ』

ラクス『貴方は無差別ビームで従わせるだけですわ、それでは意味があり、』

キラ『もう、いいよ!!--!--!!--!』

キラは一方的に電話を切った

キラ『(なら、こっそり侵入するZ E、そして・・・)』

—————

ーとある場所ー

キラ『さてとフリーダムを取りに行くか』

キラは回りに誰もいない事を確認した後、壁を叩いた
すると隠し扉が現れた

キラ『さてと、入るか』

キラはズカズカ入り、フリーダムの前にきた。

キラ『さてと』

キラがフリーダムに乗ろうとする時、人影が見えた

ラクス『来ると思っていましたわ』

キラ『ラクス!』

ラクス『貴方の事ですから来ると思っていましたわ、行きたいなら行きなさい

貴方がそつする事を望むなら』

キラ『行ってくるよラクス』

ラクス『（念のため自爆装置を別につけて遠隔操作出来るから心配ありませんわ、いつでもあの世に送れますフッフ）』

キラ『どうしたの？』

ラクス『いえ、何でもありませんわ』

キラ『そう。じゃあ行ってくるね』

ラクス『（はやく行けや）行ってらっしゃい』

キラは発進準備をして所定の位置につく

キラ『キラ・ヤマト フリーダム行きます！』

フリーダムはブースト全開で発進した

ラクス『キラ、貴方はいつも・・・』

いつも、何？ 何がいいたいの！

さてBパートだよ

任務わね、アスランとシンが地球軍の残党の幻想をぶち殺す事。

二人で行ったんだ（正義と運命で行きました）けど、暇つぶしにキラが行ったんだよね

と言う訳でキラは目的の場所には到着してませんが、アスランとシンは来てるので始めようと思います

今回は大胆な事にMSはデステイニー、ジャステイスあと武器補給の戦艦1、戦艦護衛のザク3で来てます。

予想ではデステイニーとジャステイスがいれば何とかなるらしいです。

もし何かあったらどうすんの？

デステイニーとジャステイスが覚醒します。

と説明は以上

作戦開始！

・・・

ー戦艦内ー

シン『マユー、マユー、マユー！』

アスラン『うるさいぞシン』

シン『分かってますよ、作者が叫ばせたいんだって』

アスラン『面倒な作者だ』

そんな話をしていると目的地についた

アスラン『行くぞ』

シン『はいはいって、えー！』

何あれ、デストロイの3倍はあるデストロイが100機近くいんどやん、意味がわからんぞ』

アスラン『しらん、取り合えず奴らの幻想をブチ殺すぞ』

シン『よっしゃー行くでー！』

そうして二人は発進準備をし、いつものように飛び立つ

アスラン『アスラン・ザラ ジャス・・・』

シン『シン・アスカ デステイニー行きます！』

アスラン『おい、シン割り込むなー！』

そう言いながらアスランも出た

デステイニーは光の翼を広げ単身乗り込む

シン『俺の見せ場あー！』

アスラン『（運命でキラに、俺にフルボッコだったからな）
シン『何か言いました？』

アスラン『イヤー、イッテナイツスヨ』

シン『・・・』

まあ何だ、二人はデストロイ的な奴らを潰しに行きました

アスラン『うおー！』

アスランは取り合えずサーベルで斬りまくる

シン『シスコンをナメるなー！』

シンはデステイニーの翼を広げアロндаイドを切り裂く

アスラン『シン、ピンチにはなるなよ』

シン『いきなり何ですか？』

アスラン『ピンチになるとな、どこぞの種主人公が乱入してくるか
』

シン『・・・そつすね』

二人はそんな事を思いながら闘った

長く長く闘った

そして、三時間と言う長い時間闘った

二人は疲労で限界だった

シン『終わりですか？』

アスラン『かもな、一度着陸しよう』

シン『は・・・い』

二人は地上に着陸した

その後、戦艦も着陸体制に入った

すると、何か分かんねーけどタンホイザー的な砲台？が現れた

シン『何だっただよ』

アスラン『ヤバいぞ』

シン『ピンチじゃないっすか』

アスラン『ピンチ・・・だと』

(アスランコノヤローは悟った。ピンチは出番を取られると)
アスラン『ピンチはイヤー！』

そうアスランが叫ぶと空から砲台を撃つ光が一つ

アスラン『きやがったよ』

光が射すとタンホイザー的な奴は爆発を起こした

キラ『ヤッファー、ピンチは俺のためにあるんだZ.E』

空から例のごとく青い無差別ビームの人が降って来た

シン『はあ、帰るか』

アスラン『だな』

キラ『まてや！帰んなよ、仕事しろよ』

アスラン『もう、いいや』

シン『ですね』

戦艦の中の人『皆、帰るぞー！』

兵士『はい』

つてな訳で皆帰りました

キラ『ちっ、ニートどもめ・・・』

アスラン『（お前が言つなよ）』

こうして、何だかんだで任務終了

キラの乱入で全ての人間がやる気を無くして解決となった

キラ『おい、そんなに良いのかよ』

スタッフ『良いんじゃないの・・・』

キラ『馬鹿野郎GA』

・・・

ーカガリ宅ー

アスラン『・・・でさあ、キラの奴が乱入してきた』

カガリ『分かった、分かったから』

シン『でも、キラさんが』

カガリ『うるさいな』

ラクス『でね、キラったら』

カガリ『何だよ、何なんだよ。何で皆集まってんだよ』

キラ『てか、皆さん私の事・・・見えています？
スルーっすか、無視ですか、ハブられてませんかー！？』

・・・

静かな時間の後のち一斉に三人がしゃべりだした

アスラン『で、キラが』

シン『キラさんが』

ラクス『キラがね』

カガリ『うるさーい、帰れー！』

つて事でカガリがキレました

なので、三人と空気のキラは出て行きました

アスラン『何で怒るんだろっか？』

ラクス&シン『さあ？』

キラ『こんなんで、世界は平和になるのか？』

三人『・・・』

無視して去っていく

キラ『ああ、無視かあ。イジメかあ、社会問題だよな

まさか、自分があつなんてなあ』

キラは笑いながら家に戻ったと言う

カガリ『キラ・・・イジメられてんのか?』

カガリちゃんはお気づきでしたとさ

おしまい

ムウ『今回も出番なしかよー!』

作者『いつか出すから帰れー!』

第5話 まさにフリーダム(後書き)

作者『よし、ムウさん出す前にギムかミリアルドですか』

ムウ『ひでえな、オイ』

作者『(ああ、決めたギムだそお)』

ムウ『せめてミリアルドに・・・』

作者『はっ(笑)！子安なんてクルで十分だZE』

ムウ『どこの軍曹さんの番組だよ！
つてか、ZE気に入ってるのかよ』

作者『気に入ってるZE』

ムウ『(うぜえな、オイ)』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5792/>

ひきこもり戦士ガンダムNEET DESTINY

2011年10月6日23時01分発行